

**独立行政法人  
福祉医療機構 (WAM)**

**令和4年度社会福祉振興助成事業**

**～コロナ禍における生活困窮者及び引きこもり支援に係る  
民間団体活動助成事業～**

**コロナ禍での誰ひとり取り残さない  
「生きがい就労支援」事業  
事業報告書**

**令和5年3月20日**

**特定非営利活動法人 白馬の風**

## 目次

1. はじめに	3
2. 事業背景・目的	4
3. 事業内容	5
①事業写真	
②活動記録	
4. 事業成果	9
5. 課題と今後の展開	10

## 1、はじめに

本事業は、独立行政法人福祉医療機構様より令和4年度(予備費)社会福祉振興事業の実施団体に採択され、令和4年4月から令和5年3月までの1年間助成をいただき活動した事業内容及び成果、課題についてここにご報告をする。

本事業の実施に至った思いをお話する。

今から2年前、コロナ禍が2年目を迎えますます孤立化、孤独感が増す中、観光客の減少をもちに受けリストラに合った方、また、自営で宿泊施設や飲食店をやっていた方から収入が減り生活が厳しく、働ける場を探していると相談があったことからだった。

丁度2年前のその時、白馬村の行政から現在ある配食サービス業者がていっばいでもう受けられない状態で困っていると聞き、配食サービスを孤立している方と職を失った方で仕事として、また、配達時の声掛けにより孤立が防げるのではと事業を立ちあげた。2年前のことだった。

1年目は初めての経験でいろいろな方に聞きながら事業を進め、配達時の声掛けと見守りを丁寧にしていくうちに、白馬村の包括支援センター、白馬村社会福祉協議会、白馬村にある介護施設、障がい者施設より連絡が入るようになり、今ではインフォーマルなサービスの一つとして、見守りネットワークに登録依頼が来て、より地域に密着した配食サービス業者として、ケアマネージャーや包括支援センター社会福祉協議会からの依頼を受けて配達することも多くなり、今までデイサービスで培ってきた介護知識を生かしながらより細やかで丁寧なかかわりと多職種連携を実現することができた。

そして、今回はWAM助成を受けることができ、さらに広く活動ができるきっかけづくりができたことにこの場を借りて今、社会問題にもなっている8050の引きこもり問題があるが、お弁当を利用している高齢の方の子供が何年も親の年金で生活している。その様な家族が何軒かあり、最初は誰のお弁当?と注文されるお弁当の数を聞きお話を聞いてみると、子供がずっと家にいと重い口を開かれる。お届けを約1か月する中で、今までは夜中ゲームをして朝が遅く昼夜逆転した生活をしている引きこもりの方が、お弁当を昼に配達をしているうちに、夜も早く寝て、朝も早く起きるようになり、お弁当を食べているとのこと。生活リズムが出来てきたとのこと。また、2月に包括支援センターの方より引きこもりの方へお弁当を届けたいと話をいただいたりしている。

このように、地道に活動している中で、地域、家族の困りごとが聞けるようになり、地域、家族を支える活動につながりつつある。

## 2. 事業背景

一昨年4月より、休眠預金を活用した助成金をいただき、コロナの影響で失業した方、営業困難となった宿泊施設や飲食店の方、高齢により感染のリスクから外出を制限されている方、家族が帰省できず社会的に孤立した方などを対象に配食事業を実施。特に孤食者への手作りの真心のこもったお弁当の配達と、社会的孤立者の「就労支援」を目的に、週3回、昼夕食の手作り弁当の調理の仕事を用意する活動を展開しました。社会からの孤立した方の役割作りや、孤食で食事管理ができにくくなった方の健康維持に寄与でき、またその手作り弁当の配達でのご自宅訪問する中で、独居の方や、老老介護のご夫婦などのお宅に伺い、このコロナ禍の社会的断絶と、移動手段のない中での家から一歩も出ることができない寂しさを耳にしてきました。そこで孤食や孤立した方への一方向の「縦」の繋がりはできたが、地域の中での支え合う「横」の繋がりが不足し白馬村、小谷村、大町市は観光業が主な産業な為コロナで観光客が減少し仕事が減り、宿泊業、飲食店などが大きく影響を受けた。そのことで、リストラがあり、職を探している人が増えた。

また、各地域で行われていた地区行事や地域の集まりもほぼなくなり、同じ地域で住んでいる人でさえ交流がなくなっている。独居の方はなお孤立し、高齢者は趣味のつどいや習い事など集まりの場が中止となり、人と会う機会を失い、急速に孤独になっている。

また、コロナが流行し始めテレワーク等で家にいることが増えた家族関係に問題がおき、また、引きこもりの人にとっても家族がずっと家にいることでストレスが強くなっている。

今までのような人とのつながりはコロナにより敬遠され、人と話すことがいけないことのような風潮にもなってきている。

### 事業目的

白馬村、小谷村、大町市のコロナによって孤立している方々の、就労の場づくり、低価格の配食弁当を配達販売することによる生活困窮及び孤立の防止、食や生活改善をはかりつつ、更には孤立した方たちの生きがいや、やりがいを持ち、そこに集う人たちがつながれるコミュニティが生まれることを目的とした事業を実施しました。

配食事業において、前年度より開始して2年目になり、さらに事業を拡大し、農業による就労及び野菜の販売、配食での野菜の地産地消、また、これまで積み上げた地域の方たちの販路をもとに、好評の手作りお弁当を口コミでさらにお客様を広げより地域に根差した活動にしていく。また、身近な困りごとを聞き取りフォーマルやインフォーマルなサービスにつなげること。また、孤立した方々の集まれる居場所づくりをし、地域連携を図りながら共生することを目的とした。

## 5.事業内容

本事業は、配食事業、農業事業、農産物加工及び販売事業、居場所づくり事業の4つの活動を柱に実施した。

### 1) 配食事業

期間：令和4年4月から令和5年3月

回数：272回（月26回、月水金曜日、昼・夕）

利用者数：10260人

対象者：コロナにより社会とのつながりがなくなった方、独居の方、買い物もなかなか行けなくなった方、食事を作ることが難しくなった方等

#### お弁当メニュー

主菜1、副菜3、デザート付き 300円

ある日の一例

昼—赤魚煮つけ、大根人参椎茸の煮物、小松菜人参揚げの煮びたし  
わかめ、きゅうり、カニカマの酢の物、プリン

夕—豚生姜焼き、白菜人参きゅうりの塩こぶ和え、かぼちゃサラダ  
きんぴらごぼう、プリン

ごはん、具沢山汁 各 150円

おかず、ごはん、具沢山汁セット 500円

#### 配食利用者の困りごと支援件数

雪かき：3件

買い物支援：4件（定期的に）

電球の付け替え：1件

体調不良等で包括担当者、ケアマネへ連絡：2件

独居で不穏状態の方の話し相手：1件（毎回利用時）

独居で認知度の低下した方への食事の声掛け：3件（毎回利用時）

独居でけがの予後期の方：2件

独居の方の畑の片付け：1件

独居の方のゴミ捨て：1件（定期的に）

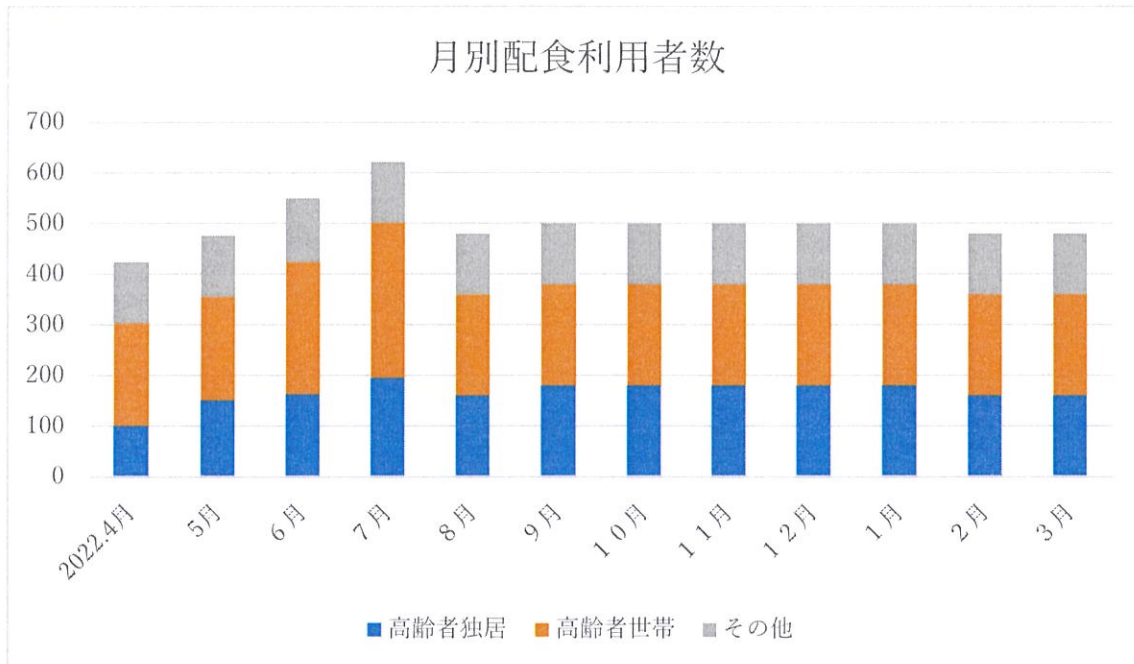


図9 月別配食利用者数

**2) 農業事業**

期間:令和 4 年 6 月から 12 月

就労支援対象者数:2 人

無償ボランティアの方:3人

出来た野菜は主に配食事業で利用し、地産地消ができた。

**3) 農産物加工及び販売事業**

期間:令和 4 年 9 月から 12 月

就労者:2 人

出来た作物を漬物にしてお弁当に入れた

**4) 居場所づくり事業**

期間:令和 4 年 4 月から令和 5 年 3 月

対象者:孤立している方

イベント実施:5 回

配食を作っている場所に話をしに来る方:随時

#### 4. 事業成果

P4のグラフからわかるように高齢者独居の方、高齢者世帯の方への配達が約8割と高齢で独居、高齢世帯の方々への配達ができた。また、包括支援センターやケアマネージャー、地域の商店の方、知り合いの方の紹介によって、野菜が多く手作りの母ちゃんの味がいいという理由から継続して利用をする方が多く、お弁当が来るのが楽しみという声が多数あった。また、配達スタッフとの会話を楽しみに待っている方が多く、社会とつながる窓口の役割にもなれ、定期的な配達により、食事のリズムができた。包括支援センター、ケアマネージャー、社会福祉協議会からの紹介で配達する方は、独居や高齢世帯の方が多く、見守り安否確認を兼ねている方が多い。配達時体調不良や声をかけても出てこないといった異変時には担当の包括支援センターやケアマネへその場で連絡をいれてつないだ。

配食事業を中心に地域で孤立している方へお弁当を配達することで、定期的に配達先の方たちの様子を見守り、より日常的にかかわることで、隠されたニーズが出てきて、フォーマルやインフォーマルのサービスにつなげることを目的として事業を実施できた。

そのことから、活動が評価され行政の見守りネットワークに登録依頼があり、協力体制を取り活動することができた。

また、農業事業では有償ボランティアの方に作業してもらい、配食弁当に使う野菜を地産地消で使うことができた。ただ、日中が暑くなかなか作業が進まなかった。

また、天候の加減で野菜が害虫が発生し、野菜が病気になるため思うように収穫が出来なかった。さらに、鳥獣の害が出て、秋野菜に被害が出た。

#### 5. 課題と今後の展開

1年間の活動を通して見えてきた課題が引きこもりの方及びその家族への支援がない、というよりできないということ。家族は不安に思い本人もきっかけが作れずずっと家に引きこもったままで、しかも社会に出るには不安が大きいこと。

親が高齢になり介護が必要な状態になっても、引きこもりの子供はその親に対して何もしない、出来ない状況がある。

今後の展開として、ますます社会問題になってきている高齢化社会での高齢者の方と引きこもりの方に、お弁当を配達することで、コミュニケーションをとり、信頼関係を作り、家から出ていろいろな人とかがわれる環境、場所の提供および就労場所の提供などが必要と考え、行政ではなかなかそこまでかかわるチャンスがないこともあり、お弁当配達をきっかけづくりととらえ、その橋渡しの活動が出来ればと考えています。



**2022 年度**

**独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業**

**発行：特定非営利活動法人白馬の風**

**所在地：長野県北安曇郡白馬村大字北城 11001**

**tel:0261-85-5850**

**Email:oranchihakuba@yahoo. co. jp**

**URL:http://npohakubanokaze.com**

**発行年月日 2022年3月**